

## 第3回 蒲郡南地区

### まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成30年10月7日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：蒲郡中学校

主催：蒲郡市

#### プログラム

開会	1：30
事務局から説明	1：35
・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・前回ワークショップでのご意見 ・蒲郡南地区の地区利用型施設再配置プラン案について ・本日の検討内容	
(休憩)	2：30
グループ討議	2：40
発表	4：00
事務連絡	4：25
閉会	4：30

#### <目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 . . . . . 1
- ・ 進め方とスケジュール . . . . . 2
- ・ 第2回ワークショップの結果概要（案） . . . . . 3
- ・ 第2回ワークショップふりかえりシートご意見 . . . . . 12
- ・ ご質問等への回答 . . . . . 16
- ・ 蒲郡南地区の課題と課題解決に向けた方策 . . . . . 22
- ・ 再配置プランの考え方 . . . . . 23
- ・ 蒲郡南地区 地区利用型施設再配置プラン案 . . . . . 24
- ・ 評価の視点 . . . . . 26
- ・ 本日の検討内容 . . . . . 27

## ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

### 蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた蒲郡南地区（蒲郡中学校区）の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

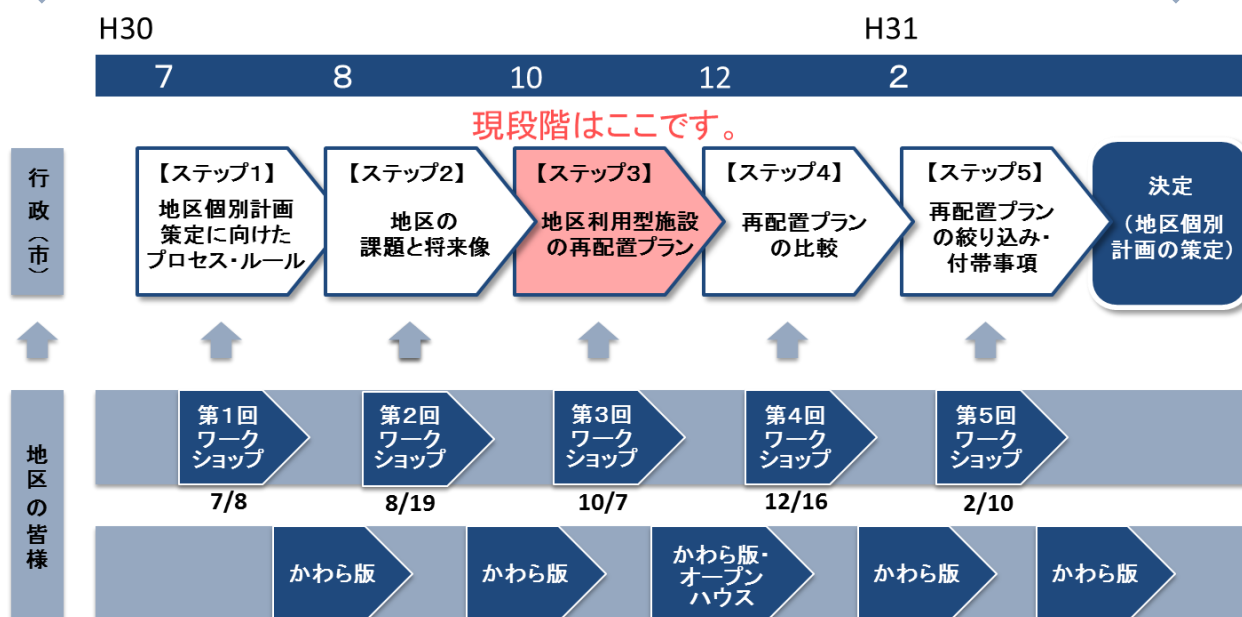
## 進め方とスケジュール

### 1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

### 2 スケジュール（予定）



## 第2回ワークショップの結果概要（案）

### 1 課題解決に向けた視点について

#### 1) 追加すべき視点

- 「⑤防災・防犯」に、“防犯・防災を考えた施設やまちづくりが必要”とあるが、まちづくりにおける防犯は、広範囲すぎて、今回のワークショップの趣旨と合わない。防犯については、「公共施設の複合化に伴う防犯」といった視点に絞り込んだ方がよい。

#### 2) 視点ごとの意見

- ① 地区での活動・交流の盛り上がり
- 行政区と学区がちぐはぐになっているエリアについては、今回の公共施設の再編や学校の統廃合の検討と併せて、これまでの経緯や現状を踏まえ、市がきちんと検討し、見直す必要がある。竹島小学校に通う三谷地区の児童には、三谷小学校の通う児童たちと同じように、学校教育を通じて、地域の象徴である「三谷祭」に関わりを持たせてあげたい。
  - 公民館は、若い世代の利用が少なく、将来利用者がいなくなってしまうのではないかと心配である。若者が利用したくなる施設にするために、防音室やワンフロアの広い部屋、スポーツジム等を整備したり、利用しようと思いたくなるプログラムづくりが必要である。特に中高生は集える場所がないことから、公民館で中高生のための居場所づくりができると良い。
  - 公民館の利用率をあげるために、地区内にある中央子育て支援センターのような機能を各公民館に持たせるなど、子育て支援に役立つ利用法を考えるとよい。
  - 公民館は地域とのつながりが強すぎて、新しい住民には利用しにくかったり、何をやっている施設なのか知らなかったりする。公民館はどのような

施設で、どのような活動ができるのか、わかりやすく伝えるとともに、新住民からどのようなことをしてみたいのかを聞き取る機会があるとよい。また、『公民館だより』がマンネリ化の傾向があるので、内容を工夫できるとよい。

- 公民館は、類似するクラブや活動は統合して、時間や場所を有効活用できるのではないかと。また、図書館、カフェやスポーツができるなど、様々な目的で多世代が集まることができる多機能施設があるとにぎわいと交流が生まれてよいだろう。
- 日々、地域活動等で交流事業に取り組んでいるが、なかなか人が集まらない状況である。ニーズがないのに無理して交流する施設をつくる必要があるのか疑問である。

## ② 学校教育環境の適正化

- 良いかどうかは別の議論になるが、市の「公共施設の床面積を3割縮減する」という方針を踏まえると、最も効果があるのは延床面積が大きい学校を統廃合するということになる。地区公共施設の再編に影響の大きい、小中学校の統廃合をどうするのかを先行して議論するべきである。
- 学校の統廃合について、教育委員会の見解を知りたい。教育環境としてどの程度の児童・生徒数が適正なのかなどをあくまでも子どもの視点に立って考える必要がある。また、PTAをはじめとする当事者達の意見を尊重すべきである。
- 行政区や学校区が異なることが地域にとっての課題になっている。子どもはそこまで気にならないかもしれないが、親世代にとっては、PTAや自治会などで関わるコミュニティのズレに混乱してしまう。昔のように学校区と行政区のズレがないよう、元に戻した方がよい。
- 子どもが少なすぎると、学校施設が有効利用されない。スクールバスを充

実させるなどして広い学校区での再編も考えれば、児童数が増え部活動などはメリットがある。母校意識だけでなく、時に合理的な視点も必要である。

- 暫定活用も含めた空き教室の活用は、例えば、災害時の仮設住宅として機能できるようにしたり、新たな技術や田舎暮らしを体験する宿泊施設にしたり、地域の歴史を展示するなど学びの空間にできるとよい。また、教室を小さな空間に区切れば活用しやすいのではないか。
- 統廃合後の空いた敷地については、地域のニーズや課題に応じた新たな施設として有効活用したい。

### ③ 子育てしやすい環境づくり

- 30年後の将来を考えるのであれば、子育てしやすい環境づくりを最優先するべきである。人口減少は仕方がないことかもしれないが、縮小策ばかりを考えるのではなく、公共施設の適正配置により子育て環境を整えることや出生率を上げる取り組み、住宅政策など、若い子育て層が周辺市町に流出しないよう、子育て層が住みやすい地区になるような策を練るべきである。
- 共働き家庭が当たり前になっているため、休日保育や病児保育などのサービスが充実するとよい。
- 子育て層にとっては、子育て支援施設や子どもが遊ぶ空間は、集約した方が便利だし活気づくだろう。施設を複合化する際には考慮して進めてほしい。また、小学校や保育園なども集約されていれば、お迎えがまとめてできて、災害時の安全面でもよいだろう。
- 愛知県児童総合センター（長久手市）、豊橋市民病院の跡地にあるこども未来館（ココニコ/豊橋市）などは、様々な子育て機能を集約させた複合施設として整備されていて、駅や車でのアクセスも良い。このように子育て

層に役立つ機能が全て集約された複合施設があれば、子育て層は移り住んでくる。

- 保育園へ子どもを送迎する際、駐車場の不足していたり、雨天時に園まで濡れてしまう施設がある。農地や空き地を確保することで駐車場を整備したり、雨除けの対策のための整備をしてほしい。

④ 高齢者のにぎわい

- 高齢者層の知識、経験、人脈を生かして活躍してもらう仕組みづくりが大切である。例えば、公民館は、元気なシニア層をトレーナーとして育成し、同世代の立場から健康づくりや介護予防を支えられるようにするなどにより、高齢者を中心した施設として活気づかせたい。
- アクセスがよい場所に高齢者が集う施設を建設したり、公共交通を充実させることで、高齢者と地域との関わりを持続させ、孤立化を防ぎたい。
- 高齢者や乳幼児はインフルエンザなどの感染症のリスクがある。複合化する際には、感染症対策にも配慮する必要がある。

⑤ 防犯・防災

- 防災には、住民による自主防災組織など地域の役割が重要で、例えば、保育園で災害が起きた時、保育士だけで児童を避難させるのは大変なことから、いざという時にスムーズに避難できるように、地域と連携をとることが大切である。府相保育園は、津波浸水想定域内に位置することから、移設するにしても、地域と連携がしやすく避難させやすい場所に移れるとよい。
- 竹島小学校は避難所に指定されているが、周辺が観光地であることから、災害時には住民だけでなく観光客も集中することが予想される。災害時の観光客への対応を地域としてどうするべきか検討をしておく必要がある。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 避難所はその地区住民でない方も含めて誰でも避難することができることを周知されていない。観光客のためにも案内板等で日頃から避難所を周知徹底しておく必要がある。
- 公共施設の再編に伴い、避難所の数が減り、収容人数が不足したり救援物資が足りないことがないよう、また、避難路が渋滞にならぬよう、計画的に取り組んでほしい。
- 災害時に車で避難することに備えて、車での避難ルートや駐車場の位置、空きスペースの確認なども予め把握しておく必要がある。

### ⑥ 利便性の確保

- 子育て層にとっては、小学校や児童館など子どもに関連する施設が近くにあると連携しやすく、便利である。また、そのような子育て関連施設にコミュニティバスを通せば、子育て層が生活しやすい地区になるだろう。
- 高齢者向けに公共施設を巡回するバスとしてだけでなく、観光客も利用できるコミュニティバスを通せば、観光客誘致にもつながるし、収益も見込める。
- 採算性や利用率からみると果たしてコミュニティバスが本当に必要だろうか。乗合タクシーなど、代替案を検討する必要がある。
- アクセスの向上だけでなく、道路整備も進めてほしい。特に、各施設に行くまでの歩道整備は重要である。できれば、歩車分離にしてほしい。
- 高齢者や小学生が利用する施設は、アクセスのしやすさや集まりやすさを考慮し、各地区から歩いていける距離にあるとよい。
- 保育園送迎用の車を停めるための駐車場など、各公共施設に、十分な広さの駐車場、自転車置き場、ベビーカー等が置けるスペースを確保してほしい。



## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

### ⑦ 将来負担の縮減

- 公共施設の床面積3割縮減が目標とのことだが、コスト面での縮減目標を知りたい。各施設を維持するためのコストも明らかにして、施設再編を検討した方がよい。

### ⑧ 運営の改善

- 「公民館」という名称は、子育て層にとって魅力的ではない。プログラムや取組みを子育て層が参加しやすい内容にする工夫も大切だが同時に名称を変更したり、市の窓口業務も対応するなどの試みもしないと、利用率は上がらないのではないか。
- 若い層をはじめとして利用者数を増やしたいのであれば、公共施設に無料Wi-Fiスポットなどのインターネット環境を整え、公民館等は夜間利用やインターネット予約を可能にするなど工夫が必要である。
- 効率的かつ質の高い運営を行うために、民間のノウハウや活力を導入すべきである。

## 2 課題解決のための具体策について

### 1) 施設再編の方向性

- 先行して府相公民館が竹島小学校の敷地へ移設し、建て替わるが、今後の公共施設の再編のモデルケースとして、参考になるだろう。特に、若い子育て世代の公民館利用を促進するよい機会となることを期待している。その様子を見てから他の公民館や小学校の複合化を具体的に検討するのもよいのではないか。
- 東部地域は、蒲郡南地区のなかでも別の地域としての認識が強い。他地域との施設統合は馴染まない。施設再編するならば東部地域内で複合化する方向ではないか。
- 小江公民館は、駐車場が狭く、他の公民館との配置のバランスを考慮しても、現地での建替えは考えにくい。蒲郡公民館の建替えの際には統廃合の議論がまとまらなかったが、やはり蒲郡公民館と統合するのがよいのではないか。
- 小江公民館をどうしても残したいという思いが強いのは、高齢の方が多いように感じるが、公民館自体は、小江地区のコミュニティの中心を担っている。お祭りも盛んなことから神社と切り離すこともできないだろう。そのため、移転させることは難しいが、公民館としてではなく、地区の集会所としてでも残すことが望ましい。
- 公共施設の再編にあたっては、立地適正化のまちづくりの観点を大切にしつつ、公共施設周辺の地域や利用者数の状況等によって、用途等を柔軟に見直していくことが求められる。

## 2) 施設の複合化

- 高齢者が多く利用する公民館と、小中学校の複合化は、世代間の交流が生まれ、施設利用も活発になるなど、様々な相乗効果も期待できるので良い。また、竹島小学校の敷地に津波浸水想定域にある府相保育園を移設するとともに、児童クラブの機能を拡充するなどして、育児・子育て・教育関連の機能を複合化したらどうか。

## 3) 学校の統合

- 市の「公共施設の床面積を3割縮減する」という方針を踏まえると、延床面積が大きい学校の統廃合をするしかないかもしれないが、その際、東部地区は昔から蒲郡南地区とは別の地域区分の認識であること、各小学校の歴史的経緯、今後の児童数減少の見込み、三谷地区のワークショップで竹島小学校に通学している三谷地区の子どもたちを三谷小学校に通わせようという話が出ていることを踏まえると、竹島小学校が蒲郡南部小学校に統合されるのが自然ではないかと考える。ただし、ここで決められることではない。
- もともと人口増加によって蒲郡南小学校から竹島小学校と中央小学校が分かれた経緯がある。人口減少により統合が避けられないのであれば、この3校を統廃合の対象とし、竹島小学校と中央小学校は蒲郡南部小学校へ統合したらどうか。
- 将来的な生徒数の減少を考えると、いずれは蒲郡中学校と中部中学校の統合まで視野に入れて考える必要もあるのではないか。

#### 4) 保育園の統合

- 保育園はどこでも通園してよいことになっている。津波浸水想定域内にある府相保育園と三谷西保育園は学区が異なるが、統合しても違和感はないのではないか。何よりも子育て層にとっては、子どもの安全が第一である。
- 空調設備や、交通面、防犯面、災害時対応など、あらゆる面で子どもの安全を第一としたい。特に、府相保育園は津波浸水想定域内であることから、安全な地域への移転を優先してほしい。

### 3 その他

- 市の財政状況等の資料がほしい。その上で、市として人口減少、税収減についてはどのような対策があるのかを知りたい。ワークショップで検討する前に、市のビジョンを明確に示すべきである。
- 現在のコミュニティバスを見直す委員会が設置され、検討が始まる。今回の公共施設再編の検討とも連携して進めてほしい。

## 第2回ワークショップ ふりかえりシートご意見

### 1 今日の議論で良かったこと

- 防災・子育ての視点から議論できた。
- 8項目全部を議論するのではなく、メリハリをつけて話し合いができた。
- 少し具体的な話ができた。
- 小江公民館の蒲郡公民館との合併の話がいろいろなグループから案が出ていて同じ思いがあることがわかって良かった。
- 様々な角度からの意見を聴く事ができました。
- グループ間の議論ができて良かった。
- 校区を昔に戻す。
- 視点がはっきりしていたため、グループ討議がしやすかった。新しい考え方ができずに少し困ってしまった。
- 第2回目で地域間の代表者との相互理解が深まり、まとまりのある議論ができた。
- 少し具体性が出たかと思います。ただ、市役所の方向性に合わしていく解があるのか？
- ある程度、全員意見が言えた。
- 前回とはちがい、今回は言いたいことを紙に書けて良かったです。
- 一人一人がちゃんと発言できる場が確保されていたのでうれしかったです。
- 前回よりも話合いの時間もあり、雰囲気的にも中身が濃いものとなった。
- 最初に前回の意見をもとに話合いのテーマが設定されていて考え易かった。同じグループに世代の違う人達がいる、それぞれ違う意見が聞けてよかった。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 議論は多く出たが、個別案件が多すぎる。(自分の住んでいる所の公民館・児童館等、人口減少、税収の低下で全体的にどうすべきか?) 私自身は単身赴任も含め、金沢、広島、東京、沖縄と勤務経験あり、蒲郡を外から眺めると視野が狭い。
- 議論の中で公民館の複合化とか、種々の利用方法の拡充の話が各グループで出ていたが、稲葉市長は複合化には賛成できないということをきいたことがあるが、そのあたりの市役所内での意思統一等がされているのか不明である。
- みなさんがどのような考えを持たれているのか知ることができて良かったと思います。特に公民館の有効活用に関して、様々なアイデアや課題が挙がり良かったと思います。
- 前回よりたくさんのお話ができ方が多かった。タイマー音がうるさかったかもしれませんが、発言時間の概念ができたのではないかと大変勉強になるワークショップです。いつもありがとうございます。
- 観光大使の加藤さんが初めてグループに加わり海外事情もほんの一部ですが、少々理解できた。

## 2 内容について言い足りなかったこと

- 時間が足りない。
- 学校の空き教室について一般の方が気軽に使えるのか、各学校にきいてもらえますか？
- 私達のグループの方々はマイナス志向の方はいないと思う。行政の方々が意識改革してくれたらな。
- 児童館＋公園（防災に特化したもの）はいいですね。例えばベンチがトイレにしてもらえるといいですね。
- 府相公民館に児童館施設を合わせて作ったらどうか。
- コミュニティバスは他の地区がやっているからと安易に考えてほしくない。
- 市の方針をもっと出してください。
- 保育園の民営化は、今後は考えていないのか？みどり保育園は人気があるのに次はないのか聞いてみたかった。
- 豊橋市が町の集約をすることが新聞に載っていたが蒲郡市としては、人口が減っていく中、密度が低いままでいくのか、人口を集中させていく話はないのか聞きたい。
- 建替え時期に「どうしても今の場所に」と思う所があればその理由を聞きたい。
- 公共施設のあり方の方向の話し合いとずれる場面があり、具体的な話にはならなかった。
- 竹島小学校区の三谷地区と平田町の子ども的人数を知りたいです。合わせると何人？
- 人口を増やす策も減らさない策も難しいとは思いますが、現在蒲郡に住んでいる方々がこれからも住み続けたいと思える方針が必要かと思います。統合も一つの方法だとは思いますが。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 市の業務効率化目標を明記してください。
- 民間力をとり入れてほしい。
- 民間は効率の悪いことは取組まない。
- 「選択と集中」をもっと検討すべき。
- 高齢化が進んでいく中で、社会参加（老人クラブ、町内会等）が進んでいない。一番重要な課題。再度、意見を聴く機会をもうけるべき。
- 本日の資料、多すぎる。簡潔にまとめ、問題点を絞って議論を前向きに進行すべき。
- 3割減について。
- 地区公共施設の統廃合ありきの前提で市の公共施設の構想もないなかの議論は無意味な感じがする様に思った。



## ご質問等への回答

- 公共施設の床面積3割縮減が目標とのことだが、コスト面での縮減目標を知りたい。各施設を維持するためのコストも明らかにして、施設再編を検討した方がよい。

### 【蒲郡市公共施設マネジメント実施計画における目標について】

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画では、計画期間である平成 58 年度までの 30 年間の目標として以下の2点を掲げています。

- ① 建物の更新の際に概ね3割の床面積を縮減する。
- ② 保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、523 億円の維持更新費用を縮減する。

人口が減少していく社会情勢の中、公共施設の維持更新費で将来に大きな負担を残さないためには、「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく必要があります。

また、高度経済成長期に集中的に建設されてきた公共施設の建替え時期を平準化することで、一時的に集中する更新費を縮減していくことも合わせて考える必要があります。

このようなことから、①の床面積の縮減と②の費用の縮減を目標として掲げています。

### 【各施設の維持に係る費用について】

各施設の維持に係る費用は、第2回ワークショップ資料のp.47にまとめています。蒲郡市公共施設白書を取りまとめた前年度までの3年間の平均値を、「施設に係るコスト」、「事業運営に係るコスト」、「人に係るコスト」、「指定管理料」に分けて掲載していますので参考にしてください。

- 市の財政状況等の資料がほしい。その上で、市として人口減少、税収減についてはどのような対策があるのかを知りたい。ワークショップで検討する前に、市のビジョンを明確に示すべきである。
- 市の業務効率化目標を明記してください。（ふりかえりシートより）

【市の将来展望や財政状況について】

本市の将来展望（ビジョン）や各分野での指針は、市の最上位の計画である「第四次蒲郡市総合計画」として示しています。

その中では、財政運営の効率化の観点から公共施設の規模の見直しや統廃合の検討を行うことや、質の高い教育環境を提供できるよう学校再編計画を策定することなどを示しており、これらの計画内容に基づき公共施設マネジメント事業に取り組んでいます。

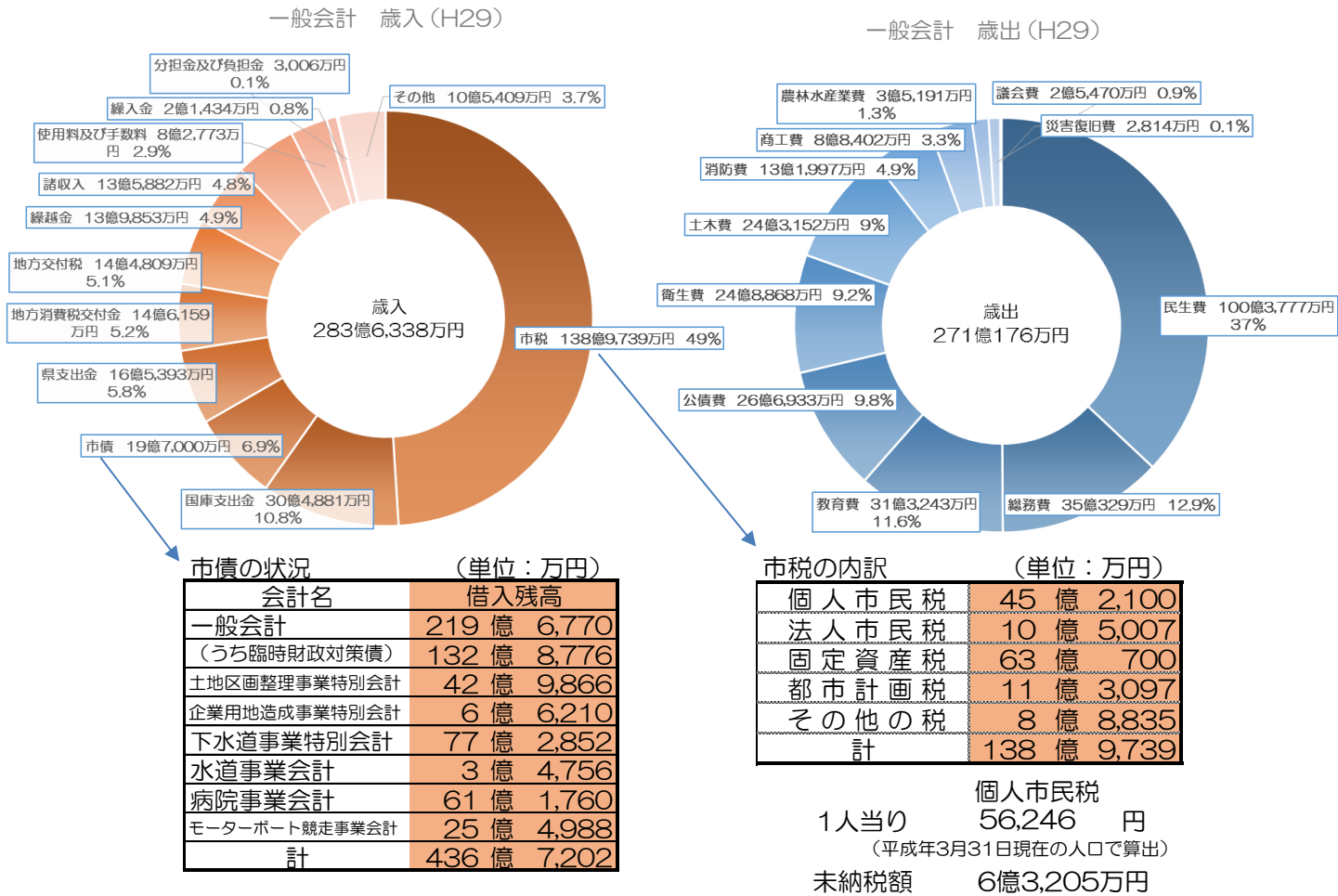
また、市では年度ごとに総合計画に基づく取り組みとその進捗状況・費用対効果等について評価する施策評価を行っています。各事業の優先度、重要度の分析を行うことで効率的な事業展開を目指しています。

特に本市が一定の人口規模を維持し持続的に発展していくための取り組みについては、「蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において多岐にわたる施策や事業を示しています。

また、近年の財政状況についての資料をp.18～19に用意しましたので参考にしてください。

# まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

## 図表1 蒲郡市財政状況



**・・・もし蒲郡市が年間収入500万円の家庭だったら・・・**

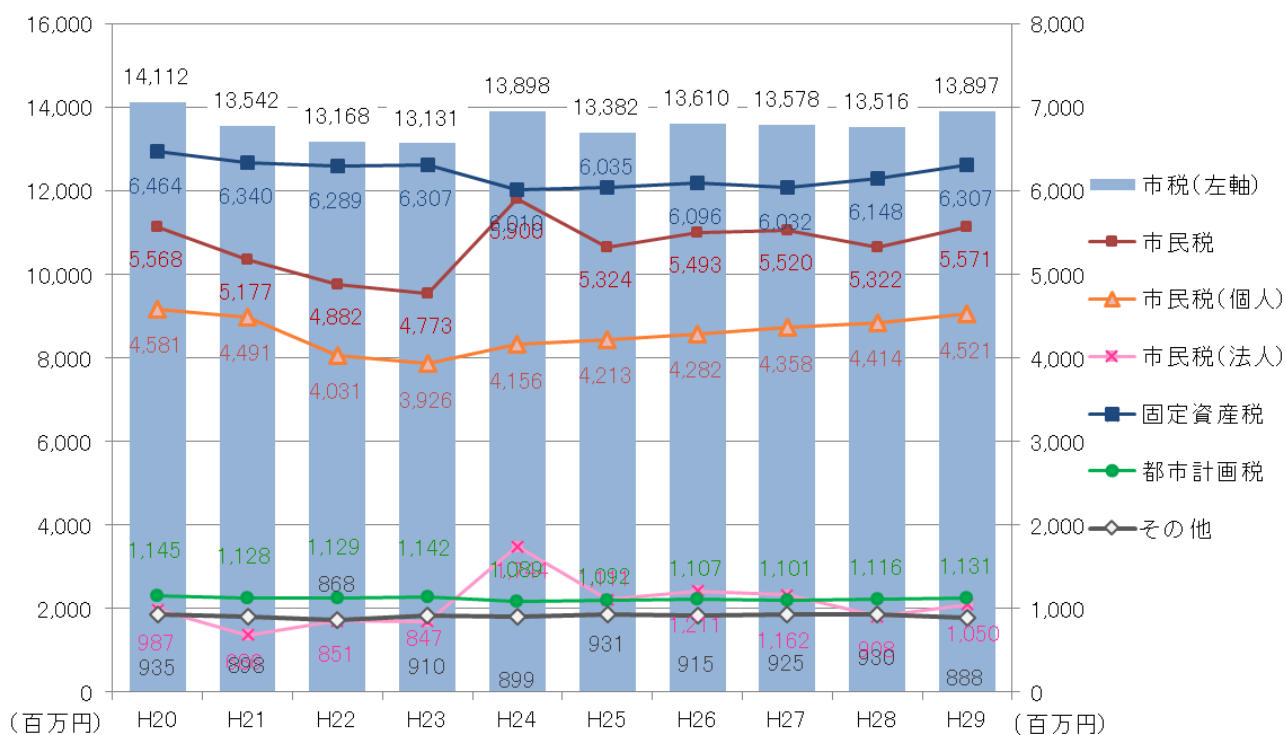
蒲郡市の平成30年度一般会計予算を家計簿に置き換えてみました。

**《蒲郡市の家計簿》**

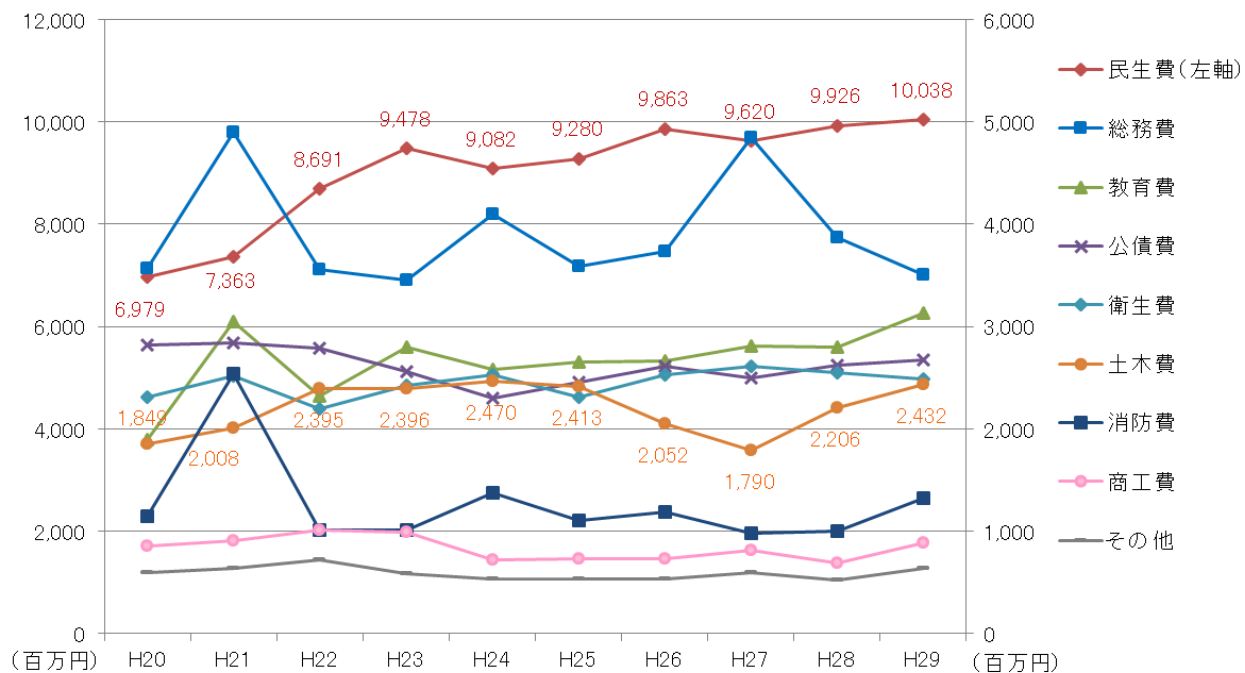
収 入		支 出	
給料 (市税)	223万円	食費 (人件費)	99万円
パート収入 (使用料・手数料等)	14万円	医療費 (扶助費)	104万円
家賃収入等 (財産収入)	2万円	光熱費や通信費など (物件費・補助費等)	153万円
親からの仕送り (地方交付税・国・県支出金等)	143万円	子供への仕送り (繰入金)	40万円
貯金の取崩し (繰入金)	34万円	家・車・電化製品の修理・買換え (維持補修費・普通建設事業費)	51万円
銀行などからの借入金 (市債)	32万円	借入金の返済 (公債費)	46万円
雑収入 (諸収入など)	52万円	貯金 (積立金)	7万円
合計	500万円	合計	500万円
※ 借入金の残高(市債残高) 平成30年度末現在高見込	369万円	※ 貯金の残高(財政調整基金残高) 平成30年度末現在高見込	19万円

# まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

## 図表2 地方税の推移（歳入）



## 図表3 目的別歳出の推移（歳出）



- 議論の中で公民館の複合化とか、種々の利用方法の拡充の話が各グループで出ていたが、稲葉市長は複合化には賛成できないということをきいたことがあるが、そのあたりの市役所内での意思統一等がされているのか不明である。（ふりかえりシートより）

【公共施設マネジメントの推進体制について】

本市における公共施設マネジメントの取り組みは、市長以下、施設所管部署や財政担当部署を含む全庁横断的な体制で、統一的に意思決定を行いながら進めています。

- 保育園の民営化は、今後は考えていないのか？みどり保育園は人気があるのに次はないのか聞いてみたかった。

【保育園の民営化について】（保育園を所管する子育て支援課による回答）

現在のところ、具体的な民営化の予定はありませんが、今後の公共施設マネジメントにおける施設の見直しの方針や民間保育所の需要の見込み等を踏まえ、民営化について検討してまいります。

- 竹島小学校区の三谷地区と平田町の子どもの人数を知りたいです。合わせると何人？（ふりかえりシートより）

図表4 三谷町西区及び平田町からの通学者数

学校	学年	三谷町西区からの通学者数（人）	平田町からの通学者数（人）
竹島小学校	1年	17	5
	2年	11	4
	3年	19	2
	4年	17	4
	5年	14	1
	6年	8	2
蒲郡中学校	1年	12	5
	2年	12	4
	3年	7	8
計		117	35

平成30年5月1日現在

蒲郡南地区の課題と課題解決に向けた方策

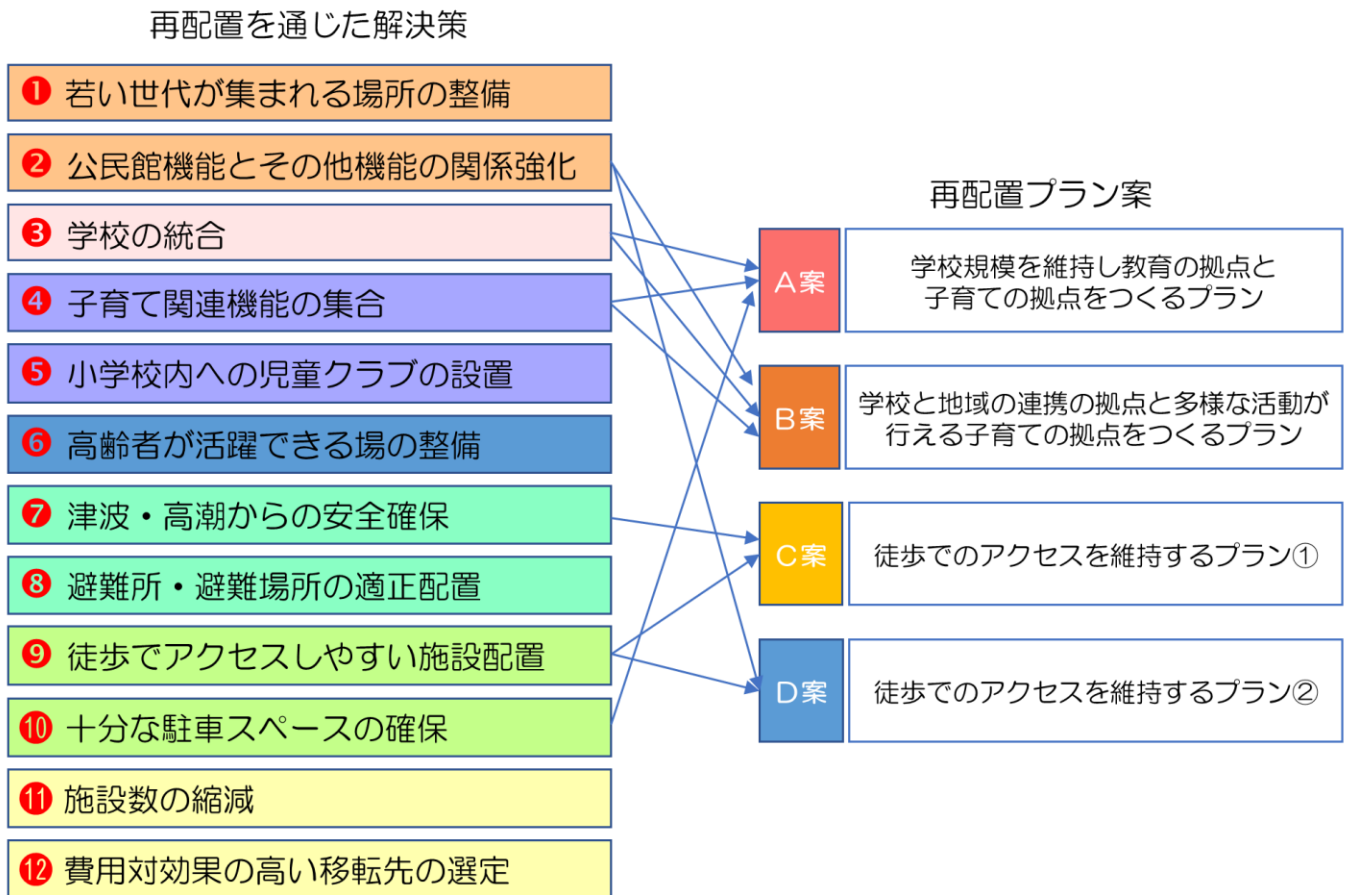
視点の整理 (赤字は、第2回WSでいただいたご意見等を元に修正・追加した箇所)		課題解決に向けた方策		
視点	第1回・第2回WSでいただいたご意見要約、地区の課題	施設の再配置を通じた解決策としていただいたご意見	再配置を通じた解決策	運営の工夫による解決策としていただいたご意見
① 地域での活動・交流の盛り上がり	<ul style="list-style-type: none"> <li>暮らしやすく、地域のためになる公共施設の在り方を考えたい。</li> <li>若者をはじめ多世代に集まってもらうための工夫が必要である。</li> <li>中高生が集える場所がない。</li> <li>地域活動等の交流事業では人が集まらないので、交流する施設をつくる必要があるのか疑問だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館を若者が利用しやすくなる施設にするために、防音室やワンフロアの広い部屋、スポーツジム等を整備する。</li> <li>公民館の利用率をあげるために、子育て支援に役立つ機能を持たせる。</li> <li>公民館を様々な目的で多世代が集まる多機能施設とする。</li> <li>東部地域は、蒲郡南地区のなかでも別の地域としての認識が強く、他地域との施設統合は馴染まない。</li> <li>小江地区のコミュニティの中心を担っている小江公民館は、地区の集会所として残す。</li> <li>公民館と小中学校の複合化により世代間交流を生む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代が集まれる場所の整備</li> <li>公民館機能とその他機能の関係強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政区と学区の不整合を解消する。</li> <li>公民館を利用しようと思いたくなるプログラムづくりを行う。</li> <li>公民館の活動をわかりやすく伝えるとともに、住民からどのような活動がしたいか聞き取る機会を設ける。</li> <li>公民館は、類似するクラブや活動は統合して、時間や場所を有効利用できるようにする。</li> <li>公民館で中高生のための居場所づくりをする。</li> </ul>
② 学校教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒数の推移を把握したうえで、統廃合について考えるべき。</li> <li>子どもの通学や地域とのつながりなども含めて考えるべき。</li> <li>どの程度の児童・生徒数が適正か、子どもの視点に立って考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童数減少の見込み等を踏まえて竹島小学校を蒲郡南部小学校に統合する。</li> <li>竹島小学校と中央小学校は蒲郡南部小学校へ統合し、かつての状態に戻す。</li> <li>将来的な生徒数の減少を考え、蒲郡中学校と中部中学校の統合を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③学校の統合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールバスの導入により学区を広くする。</li> </ul>
③ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園・児童館と小学校などの子育て関連施設は、隣接し、連携しやすい位置にあると便利で効率的である。</li> <li>子育て環境を整えることや出生率を上げる取り組み、住宅政策など子育て層が住みやすい地区になる策を考えるべき。</li> <li>※ 蒲郡南部小学校の児童クラブが、小学校内と児童館に分かれて運営されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他市の事例にならい、子育て機能が集約された複合施設を設置する。</li> <li>子育て支援施設や子どもが遊ぶ空間を集約することで便利で活気のある施設にする。</li> <li>小学校と保育園の集約されればお迎えがまとめてできる。</li> <li>竹島小学校の敷地に府相保育園を移設し、子育て・教育関連の機能を複合化する。</li> <li>府相保育園と三谷西保育園を統合する。</li> <li>保育園送迎の際の駐車場の確保や雨除け対策を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④子育て関連機能の集合</li> <li>⑤小学校内への児童クラブの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日保育や病児保育等のサービスを充実させる。</li> </ul>
④ 高齢者のにぎわい	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が利用する施設と他の機能を持つ施設が複合化すると相乗効果が生まれるのではないかと。</li> <li>公民館等での高齢者の活躍できる場の創出が必要である。</li> <li>高齢者と地域との関わりを持続させ、孤立の防止をしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が利用する施設と他機能を持つ施設の複合化により相乗効果を生む。</li> <li>公民館を高齢者を中心とした施設とし活気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②公民館機能とその他機能の関係強化</li> <li>⑥高齢者が活躍できる場の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりや介護予防などで、高齢者が同世代で支え合う仕組みをつくる。</li> <li>多世代が利用する施設の感染症対策を実施する。</li> </ul>
⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災・防犯を考えた施設やまちづくりが必要である。</li> <li>空調設備や、交通面、防犯面、災害時対応など、あらゆる面で子どもの安全の確保が必要である。</li> <li>観光客のためにも防災対策が必要だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波浸水想定域内に位置する府相保育園を移転する。</li> <li>避難所を適正配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦津波・高潮からの安全確保</li> <li>⑧避難所・避難場所の適正配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に住民の自主防災組織など、地域と連携を取れる体制を整える。</li> <li>災害時の観光客への対応方法を検討する。</li> <li>避難所や災害時の車非難経路、駐車場の位置について周知を徹底する。</li> <li>必要な救援物資を確保する。</li> </ul>
⑥ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティバスの導入を含め利用者の利便性の確保が必要である。</li> <li>駐車場不足や渋滞も考えるべき。</li> <li>道路・歩道整備を進めてほしい。できれば、歩車分離にしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者や小学生が利用する施設は、各地区から歩いていける距離に配置する。</li> <li>公共施設に十分な広さの駐車場、自転車置き場、ベビーカー置き場等のスペースを確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨徒歩でアクセスしやすい施設配置</li> <li>⑩十分な駐車スペースの確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>採算性や利用率を考慮しながら、コミュニティバスや乗合タクシーなどの交通手段の導入を検討する。</li> </ul>
⑦ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> <li>収入や費用面を踏まえた中長期的な計画の検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のバランスを考慮した公民館の配置にする。</li> <li>統廃合後の空いた敷地を有効活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑪施設数の縮減</li> <li>⑫費用対効果の高い移転先の選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き教室を活用する。</li> </ul>
⑧ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信やイベントなどソフト面での工夫が必要である。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館は、名称変更をしたり、市の窓口業務も対応するなど、利用率を上げる取り組みを実施する。</li> <li>夜間利用やインターネットでの予約を可能にする。</li> <li>Wi-Fiやインターネット環境を整備する。</li> <li>運営に民間のノウハウを導入する。</li> </ul>

## 再配置プランの考え方

再配置を通じた課題の解決策として整理した 12項目を用いて、それぞれコンセプト（特徴）の異なるA～Dの4つの再配置プラン案を作成しました。

すべての課題を満実に解決する案を作成することは困難ですが、複数のプランを比較しながら、より多くの課題を解決する再配置プランはどういったものか、検討していくことが必要です。

図：再配置を通じた解決策と再配置プラン案の関係性



※矢印は、解決策のうち事務局が特に重視した解決策と再配置プラン案との関係性を表しています。



A

学校規模を維持し教育の拠点と子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】③④⑩

- 蒲郡南部小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、竹島小学校、児童クラブの機能を集め、教育の拠点をつくります。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 現在の竹島小学校の敷地に、東部保育園、府相保育園、府相公民館の機能を集め、保育と地域活動の拠点をつくります。
- 蒲郡東部小学校の敷地に、蒲郡東部小学校、東部公民館機能を集めます。
- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。

B

学校と地域の連携の拠点と多様な活動が行える子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】②③④

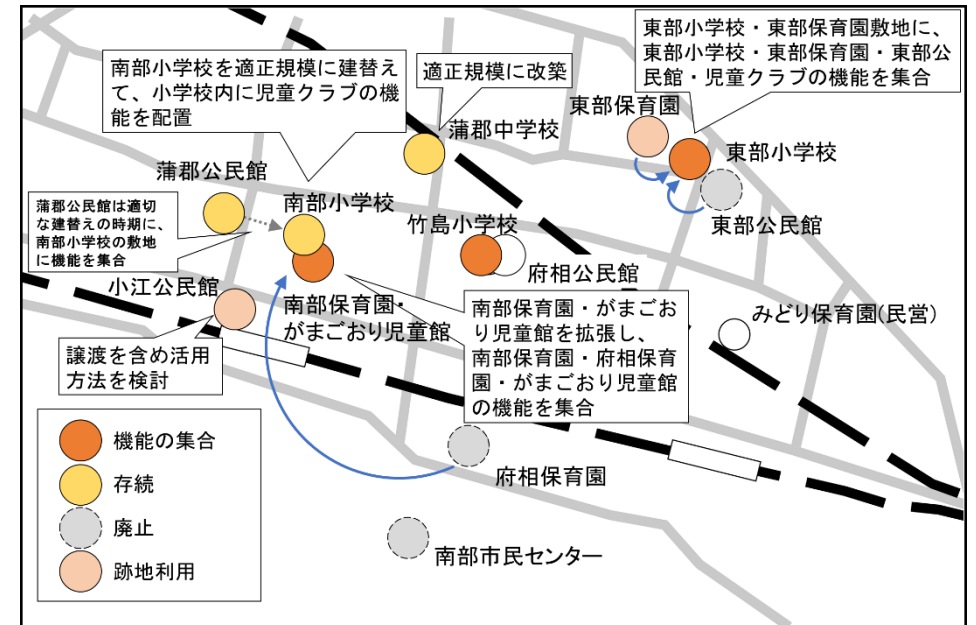
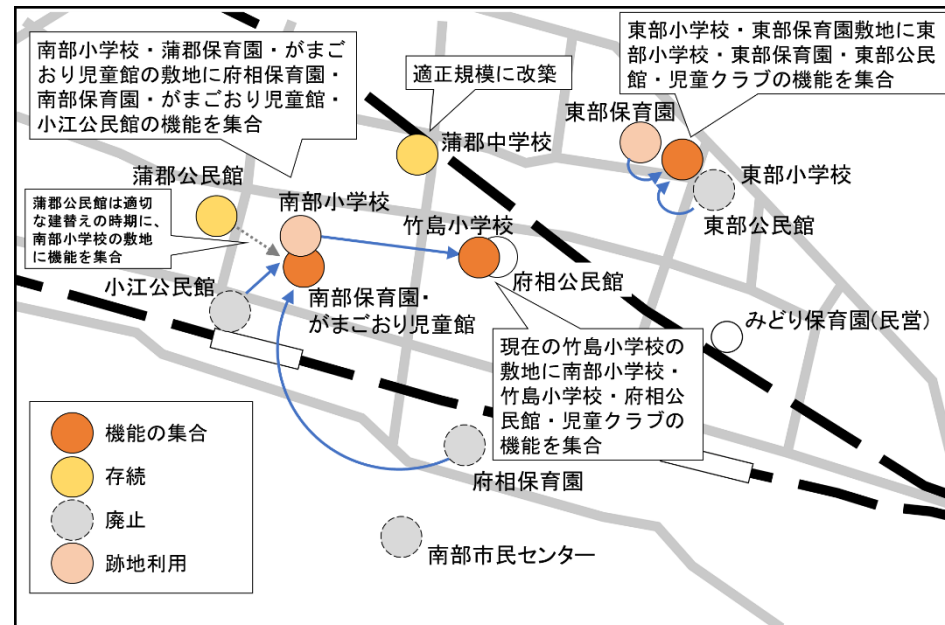
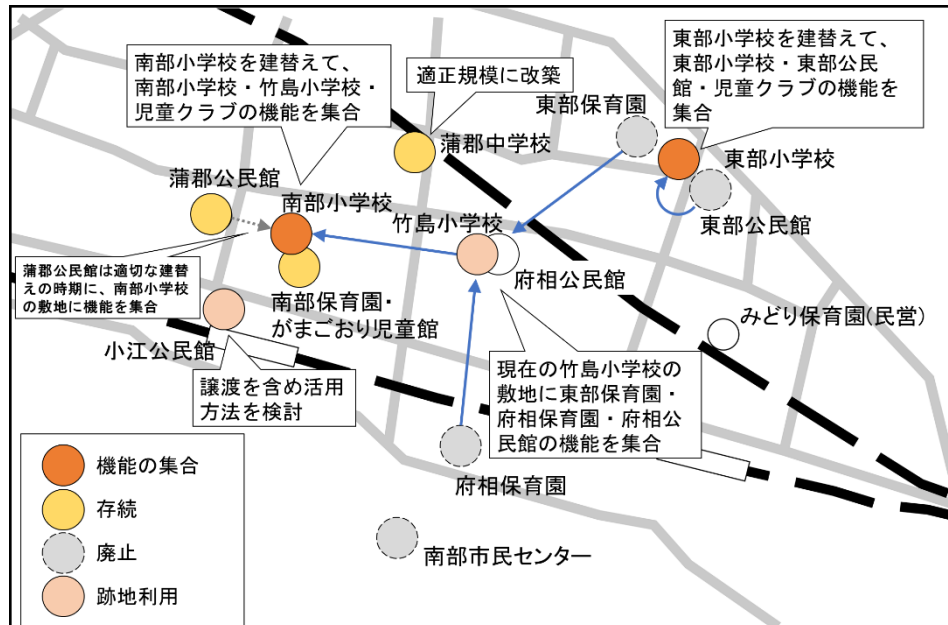
- 現在の竹島小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、竹島小学校、府相公民館、児童クラブの機能を集め、地域に開かれた教育の拠点をつくります。
- 蒲郡南部小学校・南部保育園・がまごおり児童館の敷地に、府相保育園・南部保育園・がまごおり児童館・小江公民館の機能を集め、多様な活動が行える子育ての拠点をつくります。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校、東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。

C

徒歩でのアクセスを維持するプラン ①

【重点を置いた解決策】⑦⑨

- 蒲郡南部小学校を適正規模に建替え、児童クラブ機能を配置します。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校、東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。
- 南部保育園・がまごおり児童館を拡張し、南部保育園、府相保育園、がまごおり児童館の機能を集めます。
- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 現在の竹島小学校の敷地を有効活用でき、保育園の園庭や駐車場に余裕がありアクセスしやすい保育と地域活動の拠点ができる。

【関連する解決策】②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 竹島小学校で実践される学校と地域との連携が強化される。
- 保育園・児童館・公民館の機能が集まり、子育てに関することを中心に多様な活動ができる拠点ができる。

【関連する解決策】②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

特徴

- 小学校が現地に残るため、各学校への通学アクセスが保たれる。
- 各小学校に公民館機能が集まることで、地域での活動・交流が活性化する。
- 東部地域としてのまとまりが保たれる。

【関連する解決策】②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

課題

- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。
- 小江公民館の建物の活用方法の検討が必要である。
- 津波・高潮の浸水域に立地する府相保育園を当面現地で存続させるため、移転するまでの安全対策が必要である。

課題

- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。

課題

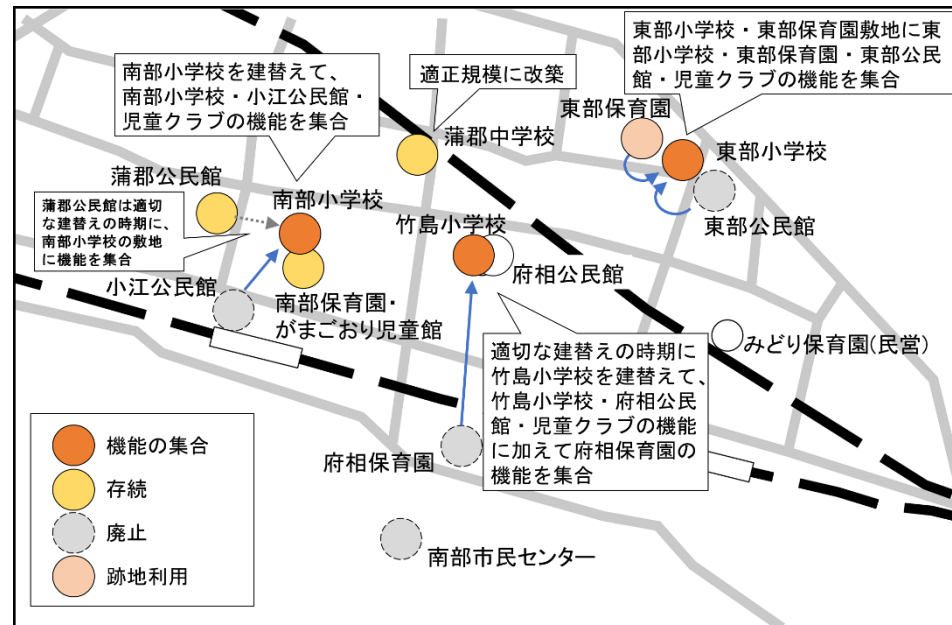
- 学校数を維持するため、費用負担が大きい。また、児童数の減少に伴い、子ども同士の交流機会や部活動の選択肢の減少が予想される。
- 小江公民館の建物の活用方法の検討が必要である。

# D

## 徒歩でのアクセスを維持するプラン ②

### 【重点を置いた解決策】 ②⑨

- 蒲郡南部小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、小江公民館、児童クラブの機能を集めます。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 竹島小学校の適切な建替えの時期に、竹島小学校、府相公民館の機能に加え府相保育園の機能を集合させます。
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校と東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。



### 特徴

- 各小学校に公民館機能が集まることで、地域での活動・交流が活性化する。
- 小学校・保育園・公民館への徒歩でのアクセスしやすさが保たれる。
- 東部地域としてのまとまりが保たれる。

【関連する解決策】 ②④⑤⑥⑧⑨⑩⑪

### 課題

- 学校数を維持するため、費用負担が大きい。また、児童数の減少に伴い、子ども同士の交流機会や部活動の選択肢の減少が予想される。
- 津波・高潮の浸水域に立地する府相保育園を当面現地で存続させるため、移転するまでの安全対策が必要である。

## 評価の視点

- 第1回・第2回のワークショップでいただいたご意見をもとに、再配置プランを検討していくための8つの視点を取りまとめました。今後、複数の再配置プラン案を比較する際の評価の視点として活用していきます。

視 点	内 容
① 地域での活動・交流の盛り上がり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域コミュニティの中心となる施設が整備されているか。</li> <li>● 世代間交流が活性化される施設配置となっているか。</li> <li>● 中高生など若い世代が集まれる場所は整備されているか。</li> </ul>
② 学校教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 適切な学校規模が維持されているか。</li> <li>● 学習環境や活動内容が充実しているか。</li> <li>● 学校の配置は適切か。</li> </ul>
③ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活気のある子どもや親の活動拠点はできているか。</li> <li>● 子育てしやすい環境が整備されているか。</li> </ul>
④ 高齢者のにぎわい	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者同士で活発に活動したり、互いに支え合う環境は充実したか。</li> <li>● 高齢者が地域との関わりを持ちやすいか。</li> </ul>
⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全の確保された立地となっているか。</li> <li>● 避難所・避難場所の数や位置は適切か。</li> <li>● 機能が集合した施設の防犯対策・安全面への配慮がされているか。</li> </ul>
⑥ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1カ所で多様な活動が行えるようになったか。</li> <li>● 各所から通いやすい施設配置となっているか。</li> <li>● 駐車スペースは十分確保されているか。</li> </ul>
⑦ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。</li> </ul>
⑧ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> <li>※ 再配置を実施後に配慮しなければいけない事項（付帯事項）として整理します。</li> </ul>

## 本日の検討内容

① 前回までのご意見をもとに、課題を解決するための対策として再配置プラン案を事務局で作成しました。再配置プラン案について確認したいこと、期待できること、不安なことはありますか。また、各々の案についてさらに良くするためのご意見はありますか。

② 今後これらの再配置プラン案を評価していきますが、その評価の指標として、皆様のご意見に基づく8つの視点を活用していきます。それぞれの視点の内容について、気になることやご意見はありますか。

## 次回ワークショップのご案内

「第4回蒲郡南地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

### 1 日時

平成30年12月16日（日）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

### 2 会場

蒲郡中学校 本館 3階図書室

### 3 お願い

- ・ 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので当日ご持参下さい。
- ・ 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

### 【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-mail：zaimu@city.gamagori.lg.jp